火花
No.10
共産主義者同盟
関西地方委員会通達

本通達の主要な眼目は、次の一点に集中される。すなわち、11/12 新米軍阻止を徹頭徹尾つらぬく党派と部隊に自らを鍛えあげることである。11/12 実力阻止斗争（斗争一般さえ断じてなく）の決定的な意義はまさにここ、白黒明らかにし、独自の結集点 11/3 デモンド、社学同実会への結集をとげなければならない。

11/12 実力阻止斗争には、現時期の帝国主義国における暴力革命の、しかもまさにそこに成否をゆだねている世界革命の、緊迫性、受連続の当面の軍部粉砕がかけられている。実力阻止斗争の実現は、大衆とともに歩むプロレタリア軍団の全体に、決定的な飛躍的発展の条件をもたらすであろう。それ故、とりわけ学生諸君は、われわれをプロ級と暴力革命をつらぬくことおしえない無能で腐敗な合法主義というその出発点に厳密にしめるであろう。

われわれは、闘争同盟の全力量をもって、11/12 実力斗争を実現せねばならない。なぜか?!

第一に、われわれの斗いは、プロレタリア国際主義の具体的な表現とはけれはならない。それは、型付けなって、いても、斗いの負において、革命政治、ゲリラ、内乱、暴乱と同じ斗いとわれわれが起ってこそ国際性一般ではなく、まさに今日の革命的大衆との国際的な結合の新たな段階を画することができる。それは、文字通り、国際共産党の再建創出を今日の革命的第三潮流のヘゲモニーのもとにうちたてるという当面の世界革命の焦点の課題の推進者の位置にわれわれがたちうる存在をかけるものである。日本、アジア、アメリカのプロレタリア人民に全く非和解的な絶縁線展開を日米会談で示そうとするとき、これに革命的暴力を対置することこそ、帝国主義打倒の鍵と大衆の国際的結合の環である。

11/12 斗争は、反戦斗争が、自国のあるいは結合された帝国主義の戦略に対して根源的な破綻をあぶり出すほかにない。ここでその斗いは、暴力的形態をもってなされるが故に、帝国主義と直接、帝国主義一般の斗う大衆に結合を開ける道を与え、そうすることによって、国際反戦運動を現時期の帝国主義における世界革命の戦略的中心環に位置せしめたのである。

11/12 斗争は、ヨーロッパ全域において、プロレタリアートの全面斗争と結合した 六九年NATO改編に対する人民コースの第一歩。そして。アメリカでは、徴兵拒否を中心とする白人の斗いが、すすむ実力斗争＝反帝反政府斗争と「自治政府の敗北」をもめざす方向に移行しつつある。日本で、帝国主義は 確実にその腐敗的な能力の日帝の攻撃に対する政治的局面を開始した。これらを先導する反戦と軍部として、共産主義者の斗いが、労人叛乱が、11/12 斗争が、不可欠の要因としてあることを見失ってはならない。

植民地武装解放斗争は、帝国主義の世界支配の土台につきすすむ革命戦争である。この斗いは、帝国主義国人民の解放斗争の条件を形成しつつ、ゆえに、決定的に帝国主義国人民の援助で具体的に切望している。この連関を断つものが、帝国主義民族の形成であり、絶対するものが、ある攻撃を軍事、外交路線として表示する帝国主義に対する反戦斗争の中に帝反政府斗争があり、それは、必然的に、帝国主義の最も一般的な危機において 革命戦争という暴力の思想をつらぬく、ゴリひらくことはできない。

世界革命の第一の結合され、これの部隊は、今日、インターナショナルは革命戦争、叛乱として「人民戦争」を行してきました、めざしている。これらの部隊とのヘゲモニーは確実し、支援しさらに連帯ゲーリー二又と結合と根源的な、その存在そのものと敵対する

新たな革命潮流であり、世界革命のいきづまりをものりこえようとする、第三の潮流である。われわれをふくめていずれも50年代後半以降に登場しはじめた世界的な革命潮流であり その核心においての社会主義とプロ級 ②民族解放と暴力革命 ③インターナショナリズムとその統一 において自覚性をもつものである。この自覚性をもった潮流を、「原則に一致の原則」「世界共産党」をめざすという世界革命の不可欠の事業をわれわれは荷わなければならない。それはイデオロギー闘争、組織闘争と固く結びついた革命主義的闘争に対する実力闘争をぬきにしては絶対ありえないのである。そして、世界でひしめくプロレタリアート的の闘争のインターナショナルな打倒の展望を与えること、世界革命の限界を「安保」「共産党」の世界的世界的革命の制約から真にプロレタリアートをとき放つことはできないのであり、ソ連邦「共産党」の世界的世界的革命の制約から真にプロレタリアートをとき放つことはできないのである。そして、われわれは、この限界をとりこえることは、現に当面の安保七〇年闘争、六〇年安保の「世界的闘争」の「第二期闘争」の「総点」の性格をはるかに突破して、世界的な革命的闘争、蜂起、実力闘争の単一体として展望っている過程にたちあがれ、「世界」を一挙におくらせることを意味する。

レーニンは、しばしばさっきに、情勢と運動の新たな展開は、どのように不意に襲ってくるかわからない。ゆえに闘争は、われわれが、実力闘争を準備する過程にメッセージとなるまでつきつけたのである。この事実にたどりつくことなしに、前進にはありえない。

新アジアの統一へと、一度目結束、かつ世界プロレタリアの根本的利害に対、ある反響を日帝がやろうとし、大衆の怒り—ゆるぎの目標の中で培われた正当な闘争は 新米問題に広汎によせられ、集中し、当然のことながら、これをはっきりした意識と闘争への意欲に導くのには全く原則的な大衆闘争の組織者的な闘争である）ているとき、これに当面の最高の闘争形態を与え、われわれは直接に実現することは、一挙に強化されかつ発展した反革命に事実上接近し、ゆるのはるかに遠ざけられないための絶対不可欠の任務である。

ある意味さ、一発的爆発はたやすい。われわれに必要なのは、実力闘争の連続的継続によって、大衆的高揚をたやさず、安保七〇年に結集することである。

われは 実力阻止闘争でなければならぬ。

黒人の、暴動につづく蜂起をもってしたように、ベトナム解放戦線は、不屈の反撃を持続しているように、かつてロシアのプロレタリアートは、血の日曜日からモスクワ武装蜂起にまでのぼりつめたようにわれわれの行程を貫徹せねばならぬ。

われは、われわれの計画的な最初の試練である。

第二に、日本帝国主義は、ベトナムを始めとする第一次第二次東南アジア諸国武力によって ベトナム平定に成功したアジアの政治的安定と開発的にアジア太平洋開発計画を具体的におしすすめ、資源及び大衆闘争（特に学生）、低賃金の第一級力圏形成に新段階を画した。この日帝の帝国主義政策は不可分にアジアにおける日米帝支配利害の調整と分化結合を必要とする日米帝支配利害の調整と分化結合を必要とする日米帝支配利害の調整と分化結合を必要とする

10/8斗争はまさに先駆的な前衛部隊による実力斗争として10月の大衆的な広がりとたかまりを促進した。それは、11/12訪米斗争への連続した政治過程を用いし、帝国主義の攻勢によって開かれた安保七〇年斗争の戦端を、プロレタリア政治はどのようにむかえうっていくのかの国際的国内的な戦略配置と斗争形態の見とり図とその中での左翼ヘゲモニー確定の型を、11/12実力斗争の貫てつに委ねようとしているのである。

だが――斗争の暴力性と大衆性、実力斗争と大衆の政治行動、前衛部隊と普通の大衆部隊とのあいだに乖離があること――これが現時点の政治過程の最も深刻な留意すべき戦略の核心があるであろう。

权力の弾圧は、この間隙を断ち、われわれを孤立・センメツすることにねらいをさだめている。

日和見主義者、ことに日共は、この二つの要因をデマゴギッシュに敵対させることに党存続の命運をかけている。

われわれは、ここで現象論者になることも、中二期の運動の古い型の思考にとまどってもならない。

この二つの要素は、革命に、多小なりとも偉大な斗いに不可欠のものであり、これを敵対・切断させるどのような内外の傾向とも斗いぬかねばならない。

「実力斗争だけでなく、大衆斗争はいらない」

「大衆はまだ自分が実力斗争にたつ決定的な要素をもっていないから、実力斗争は時機尚早だ、大衆の意識水準にあわせた斗りでまいし――これらは二つともまちがいである。

われわれはどんなに偉大な革命の時機にもすなわち圧倒的な大衆が革命に登場するときにも前衛と後衛がある ことを知っている。巨大な武装蜂起も、直接の当時者はやはり小数である。末端にいけばいくほど、古い時代のシツポはまつわりついているだろう。だがこゝでは、敵対しているのではなく、結合している。人民の斗争はその最先端者を蜂起に見出すからである。蜂起は最大多数者を守り導くからである。人民は彼らを本能的に支持するし、支持するようになるからである。

中国・ヴェトナム・キューバのゲリラと云う点と人民という水の関係もまた同じである。極小数のゲリラヘキュ

ーバははじめ二〇〇人であり、現にボリビアゲリラは四〇〇―六〇〇である)が、実際に偉力を揮いうるのは、直接の戦斗当事者とはなさらない人民の有形無形の熱烈な支援があるからである。それがながい小数ゲリラの果てに、やがては正規の作戦に移行するとき、人民の蜂起との明白な結合となってあらわれるのと全く同じ同様に、われわれの実力斗争と大衆斗争との連関を革命といわず、安保七〇年斗争の射程に修めなければならない。

10/8は前衛の、前衛のみの斗争であった。それは人民に斗いに起つことをよびかけ、おしえることによって、人民の昂揚を作った。

人民は大衆的昂揚を作ることによって逆に前衛の孤立と粉砕を防衛した。

いま、訪米をまえに、このいっそう自覚的な改革を前にして、二の連関は一歩たかめられねばならない。11/9～11/10の大衆斗争、全国的政治斗争をもって圧倒的な反帝反政府の意志を結集せよ。その連続的な実力斗争への転化を11/12実力斗争の前衛部隊とそのまわりの先進的大衆の結合によってきりひらけ。

大衆斗争を基盤とし、大衆斗争の政治要求をゲリラディカルな斗争形態をもって代表するれぎり、実力斗争は予め大衆の潜在的な支持をかちとり、より明白に意識化された支持を拡大するであろう。いよいよ結集する反革命との拮頭、現に弾圧の強化と、ある状況をつゝて、われわれが実力斗争をねんてゐせねばならず、かつ、なしうるのはこのためである。このような実力斗争を常態化せねばならない。この実力斗争、大衆斗争の継起、結合をもって安保七〇年斗争へ――このことだけが10/8の巨大な意義を、偶然的エピソード化する危険を粉砕し、実力斗争の思想と路線を定着させるであろう。この斗いに表現されてこそ確固たる前衛の所在と大衆自身の前進を内外の大衆は確信することができる。そうであってはじめて安保七〇年への道はベトミンはもとより、アメリカの黒人と反戦斗争、韓国はじめアジア人民の斗いと結合する確実な保証をもつ。同時に、日本プロレタリア人民は自己たちの斗いの回路を真にひらかれるであろう。

すなわち本当に、11/12実力闘争は、まさにプロレタリア主体の斗いの大きな岐点を作りだす前衛の任務として絶対不可欠である。10/8斗争は学生だけの斗いではなかった。学生前衛が大きなきっかけを作ったが、もちろんそうでなければならない。もっぱら直接最前線を形成するのがさしあたって学生であるということ（以下、ページ